

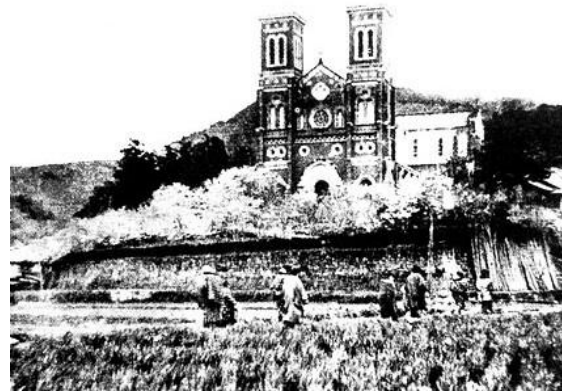
## 続・南蛮の風紀行 長崎篇 - 6 「痛みとかなしみと」(最終回)



被爆直後の浦上天主堂

第二次世界大戦末期の1945年(昭和20年)8月9日午前11時02分、アメリカは長崎市に対して、広島市に次ぐ2発目の原子爆弾を投下しました。実戦で使われた人類史上二発目の核兵器です。この一発の兵器により、一瞬のうちに当時の長崎市の人口24万人(推定)のうち約7万4千人が死没、建物は約36%が全焼または全半壊してしまいました。わたしは原爆資料館には一度しか訪れていません。長崎には何度も行っていますが、平和公園までは行けても資料館の中には入ることができません。初めて入館した時の胸の痛みがトラウマとなって、わたしの足を引き留めるのです。

長崎を語る時、どうしても避けては通ることのできない瞬間があります。それは1945年(昭和20年)8月9日午前11時02分です。その瞬間、晴れ渡っていたはずの長崎のまちの上の空は、閃光とそれに続く衝撃、そして遠く熊本からも入道雲のように見えたキノコ雲に覆われたのです。70年以上も過ぎた今でも、長崎の空は晴れば晴れるほど深い悲しみの色を帯びているように見えるのは、わたしの思い込みのせいでしょうか。



被爆前の浦上天主堂(桜の時期)



被爆前の爆心地付近。右上の端に浦上天主堂が見えています。



変わり果てた爆心地付近。ここには万余の身身の人間が生活をしていました。

「人間は考える葦」と言ったのはパスカルでしたか。本来弱い存在である葦も「考える力によって宇宙をも凌駕する」というのが、哲学者パスカルのテーゼでした。確かに宇宙をも凌駕する知恵をわたしたちは得たかもしれませんが、それが果たして「考える力」であったかどうか、わたしは疑っています。全ての物質が分子や原子からなり、さらに原子

は素粒子と呼ばれるものからできていることを発見したわたしたち人間は、その知識を人間を一瞬にして原子のレベルにまで破壊しつくしてしまう原子爆弾を作ることに使い、しかも2度もそれを実践で使ったのですから。



長崎には原爆に纏わる3つの母子像があります。その一つが「苦痛にたえながら手当の順番を待つ母子」と名付けられているこの写真です。2006年12月9日、田中キヲさんは肺炎のため亡くなりました。享年91歳でした。彼女こそが長崎原爆の惨状を伝えるこの写真のお母さんです。この赤ちゃんはキヲさんの次男義廣ちゃんですが残念ながら被ばくから6日後に、たった4か月のあまりにも短い一生を終えています。この写真は被ばくの翌日、臨時救護所で、陸軍の写真班によって撮られたものだそうです。

二つ目の母子像はブロンズのレリーフで、そこには瀕死のわが子を抱く母、崩壊する地球を全身で支えようとする母、子らを胸に戦火を見すえる母など、痛みと悲しみとそして愛と祈りに満ちた32体の母子像が

彫られています。

この像は1987年8月、長崎平和の母子像を建てる会のお母さん方によって集められた浄財をもとに建立されました。あの日、閃光の下で幾万もの命が一瞬にして消え、その中には無数の母と子も含まれていたのです。平和の母子像と名付けられたこのレリーフは、再びあの惨禍を繰り返さぬという、長崎のお母さん方の祈りと誓いをこめて建立されたそうです。

平和公園の近くの爆心地にある爆心地公園の一角に3つ目の母子像があります。1997年被ばく50周年を記念するために長崎市によって計画されたものですが、この像は建立までも建立されてからも物議をかもしました。何より被ばく者の会が強く反対の意思を表したのですが、民意は当時の市役所には届きませんでした。建立の可否をめぐる争いは法廷に持ち込まれ、最高裁まで行きましたが、結局、長崎市が勝訴しています。

炎をモチーフにしたひだと火の粉を表したバラの花をまとめて、幼いわが子を胸に、しっかりと前を見つめているこの母子像に、原爆に反対し、世界の恒久平和を願う力は備わっていると、わたしは感じるのですが、皆さんは如何でしょう。確かに祈りの場に偶像は

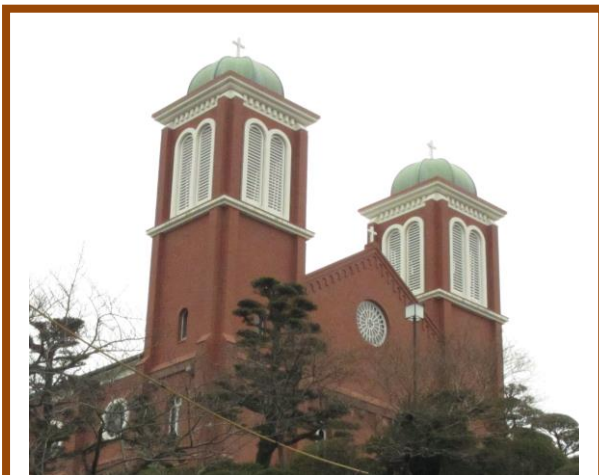


平和公園にある平和の母子像





で核兵器の保有量が最も多い国の大統領なのです。ノーベル平和賞を受賞した彼自身が指し示した核兵器のない未来への第一歩として、わたしは歴史的な瞬間だったと思っています。任期末のこととはいえ、オバマ大統領の勇気ある決断を、わたしは高く評価したいと思います。



浦上天主堂後に再建されたカトリック浦上教会

カトリック圏では、天主堂と呼ばれるだけの格式のある教会です。

ここで、わたしはもう一体の母子像を見つけました。美しい白大理石で刻まれたキリストを抱くマリア像です。わたしはクリスチャンではありませんが、長い間、カトリック圏で暮らしていましたので、マ

いらないという考え方もあります。爆心地には、それを表すオベリスクのような石柱が立っているだけですから。

2016年5月27日、オバマ米大統領が広島市を訪問しました。伊勢志摩サミット終了後、大統領専用機でセントレア（名古屋空港）から岩国基地まで飛び、そこからヘリコプターで広島平和記念公園に降り立ったのです。広島平和記念資料館を10分ほど視察した後、慰霊碑に献花し、そこから17分にわたって「核兵器のない世界」に向けたメッセージを発信しました。結局、オバマ大統領は広島には1時間ほど滞在しただけでしたが、大統領被爆者代表2名と言葉を交わしたり、抱擁を交わす姿は世界中に配信されました。

彼が広島・長崎に原爆を落とした加害者国の現職大統領であることはひとまず置きましょう。しかし、何といたっても彼は今日の世界

現在、浦上天主堂跡地にはカトリック浦上教会が立っています。1959年に元の浦上天主堂を模して再建されたものです。教会

と呼ばれていますが、長崎大司教区の司教の聖座堂に指定されていますから、カ



カトリック浦上教会前の母子像

リア像が好きです。この白く穢れのない母子像に手を合わせ、幸福と安寧を祈らざるを得ませんでした。